

生活しているまちへの 意識と関わり

栗本 智代 *Written by Tomoyo Kurimoto* ● 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 研究員

はじめに

このところ、人々の娯楽への関心が、海外などの名所や文化から、日本や地元、つまり身近な歴史や文化に帰ってきたと思わせるブームが続いている。たとえば、奈良県興福寺の“阿修羅”像が、巡回展で全国的に有名になって奈良にもどってきた。桃山時代を代表する絵師「長谷川等伯」の展覧会も同様の現象が起きた。住んでいる地域やとなりまちを、地元の家内人と一緒に歩くツアーも静かな人気を集めている。

身近な地域への関心や、活動への参加、コミュニティ内での交流は、日々の時間をより豊かに充実させてくれる。そのことに気づき始めた人は少なくないだろう。今後さらに、関心を持つためのきっかけや出会いが必要であり、多様な情報や参加プログラムも望まれる。

本稿では、当研究所(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所)が2010年に行った生活意識調査の中で、「生活しているまち」(※)に対する意識と関わりについて、質問を行った。世代ごとの傾向を含めて以下に報告する。

(※)「生活しているまち」とは、住まいのある市町村だけではなく、仕事をしたり日常の買い物をしたり、病院に行ったりする市町村のこととして、回答者に答えてもらった。

生活している

まちに関する知見〈現状〉

まず、生活しているまちに関して、どの程度知っているか、4つの項目について質問

した(図1)。

1つ目は、歴史(まちの歩み、歴史的有名人の有無、開発の変遷なども含む)について。まちの歴史は、自ら興味を持たないと学ぶきっかけや知る機会が少ないが、年齢が高いほど、より興味を持つ傾向にあった。

全体で、「詳しく知っている」5.2%、「多少は知っている」68.4%、「知らない」26.1%と、約4分の3は何らかの知見がある。年代別に見ると、「詳しく“あるいは”多少は“知っている割合は、年代が上がるほど多くなっており、男女別でも傾向は同じだが、50代を除くと男性の方がよりポイントが高い結果であった。

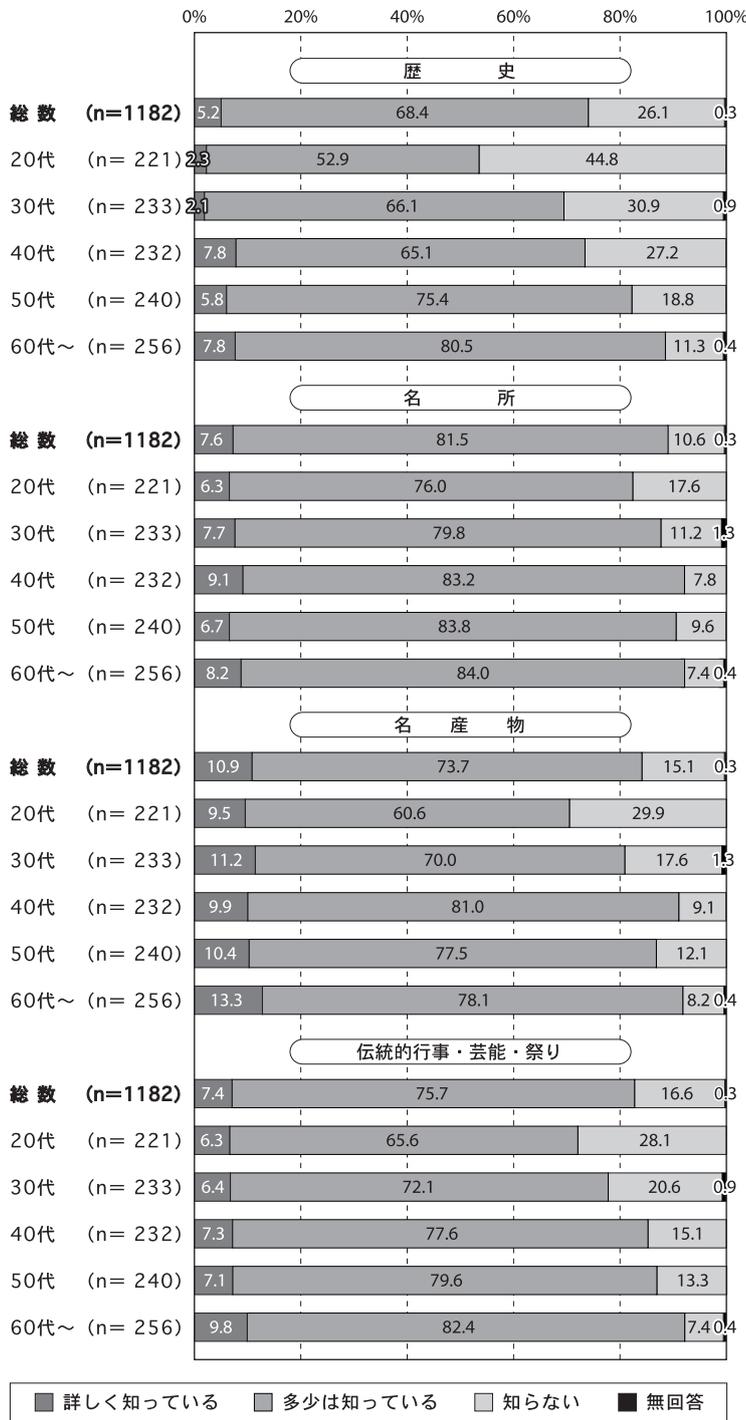
2つ目は、「名所」(観光名所や旧跡、神社仏閣だけでなく、話題の人気スポットや施設、店なども含む)について。名所は、テレビや雑誌、新聞、広告など、情報が入手しやすく、また娯楽的要素が大きいため、興味を持つ人も多いのだろう。

全体で、「詳しく知っている」7.6%、「多少は知っている」81.5%、「知らない」10.6%という結果であり、概してよく知られている。世代別には、少ない順に20代、30代と続き、40代以上は大きな差はなく、よく知っている傾向にあった。男女別では、大きな差はなかった。

3つ目に、名産物について。全体では、「詳しく知っている」10.9%、「多少は知っている」73.7%、「知らない」15.1%と、8割以上はある程度の知見があり、世代が高いほど

図1

あなたは、「生活しているまち」の以下のことについてどの程度知っていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)



よく知っている。地産の食べ物、工芸品は、土産物として活用されることも多い。よく知っている世代は、手土産や贈り物を通して家族や知人と関わりを深めることが多い世代だとも考えられる。男女別では、詳しく知っていると答えた人は、男性の60代以上が21・1%とダントツに多いが、「詳しく」あるいは「多少は」知っているとは答えたのは、20代を除くと女性の方が、ポイントが高い。

4つ目に、伝統的行事・芸能・祭りについて。全体では、「詳しく知っている」人は7・4%、

「多少は知っている」75・7%、「知らない」16・6%と、「歴史」に比べると、ややよく知られている。男女とも、世代が上がるほどよく知っていた。

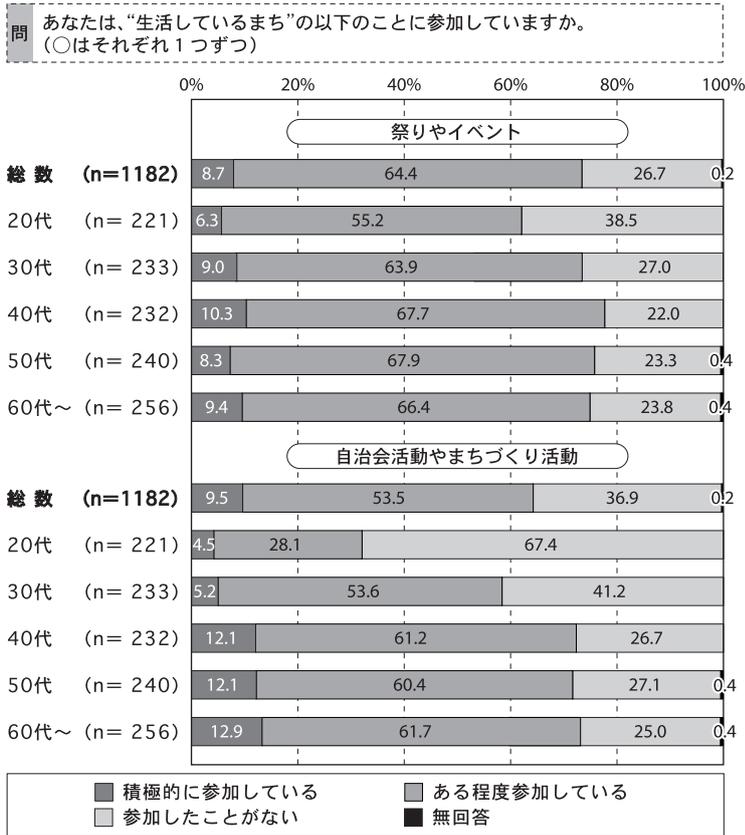
ここまですらを見ると、世代が高いほど知見が高い傾向があるが、「歴史」「伝統的行事・芸能・祭り」については、その差が特に顕著である。また男性の60代以上は、人生経験や諸活動などで自信があるのだろう、どの項目も「詳しく知っている」と答えた人の割合が、もっとも多かった。

生活しているまちに関する知見へ今後のニーズ

これらの4つの項目について、今後さらに知りたいかどうかを質問した。結果から、まだ知らなかったことに対して、体験することや知見を得ることへのニーズは、世代を問わず、潜在していることがわかった。

4つの項目の中では、名所にもっとも関心が高く、「実際に訪れたり味わったり、自身で体験してみたい」と答えた人が29・9%と

図2



3割近くを占め、「知識として」と答えた人が35・4%であった。世代別では、20代に關心を示す人が多く、次に30代が続く。まだ知らないことが多く体力もある若い世代には、わがまちの名所探訪、体験のニーズが高いことがわかる。

関心の程度は、「名所」の次に「名産物」が高く、「歴史と伝統的行事」、「祭り」がほぼ同じ程度であり、実際に体験したい、知識としてさらに知りたいと答えたのは、いずれも、どの世代も半数以上を占めていた。

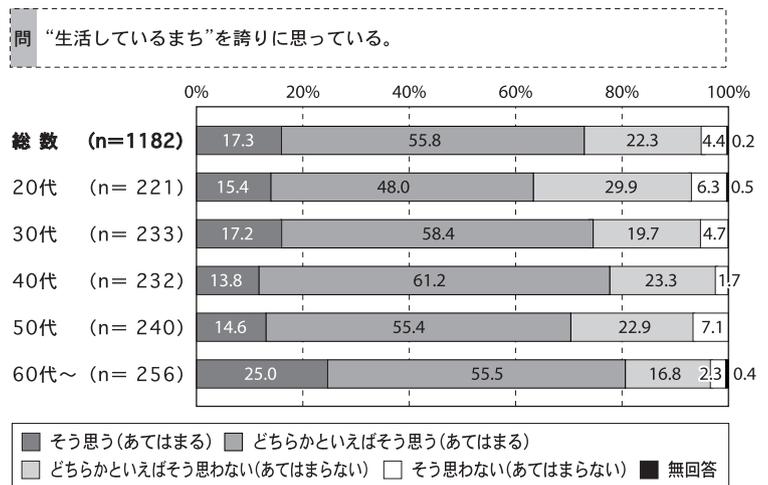
行事や地域活動への参加

続いて生活しているまちの、「祭りやイベント」「自治会活動やまちづくり活動」の2項目について参加の有無を質問した(図2)。

「祭りやイベント」への参加について。全体で、積極的に参加していると答えたのは、8・7%と少ないが、ある程度参加していると答えたのは64・4%と過半数を超えた。身近な場所での非日常の楽しみとして関心も高く、参加しやすいのだろう。

年代別では、20代がもっとも少ない。さらに男女別では、「積極的に」「ある程度」参加している人数を足すと、どの年代も女性の方が多く、30代、40代、50代は特にその傾向が顕著に見られた。「自治会やまちづくり活動」については、「積極的に」あるいは「ある程度」参加していると答えた人は全体で6割以上になる。が、年代による差がかなりあった。20代はもっとも少なく32・6%と関心の薄さがかうかが

図3



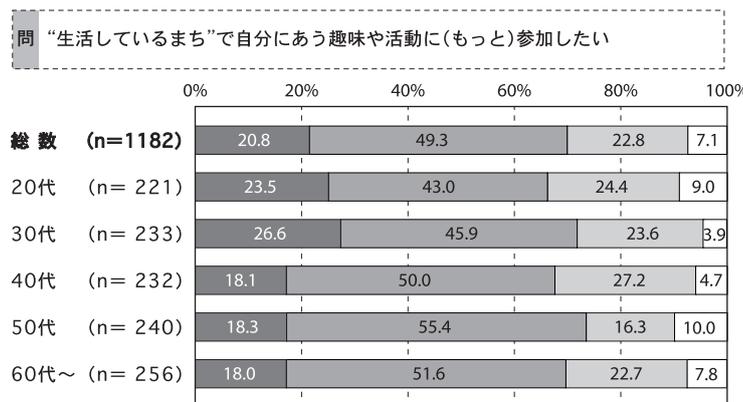
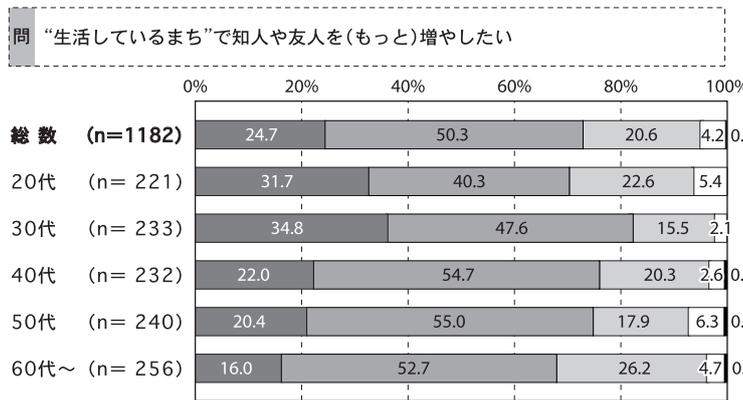
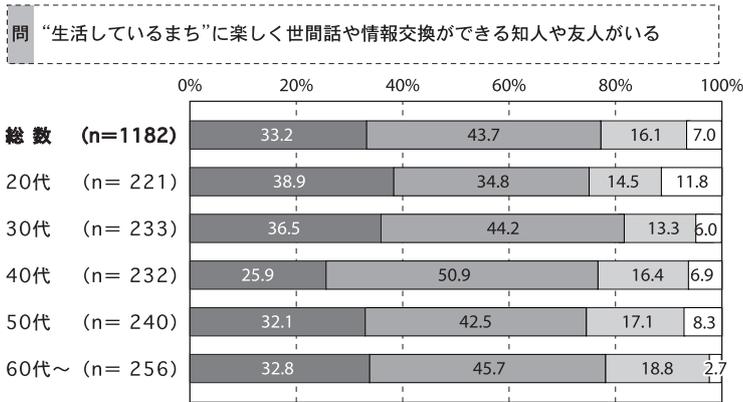
える。次に少ないのが30代だが58・8%と過半数を超えた。40代以上は、どの年代もほぼ同程度で7割以上を占める。

男女別では、「積極的に」あるいは「ある程度」参加していると答えた人がもっとも多かったのが、50代の女性で84・2%を占めた。意外にも40代の男性が、50代、60代以上の男性よりよく参加していた。

次に「生活するまちを誇りに思っているか」という質問をした(図3)。

全体的に、あてはまる人(「そう思う」)人と

図4



■ そう思う(あてはまる) ■ どちらかといえばそう思う(あてはまる)
 □ どちらかといえばそう思わない(あてはまらない) □ そう思わない(あてはまらない) ■ 無回答

溶け込んでいるとも考えられる。男性50代は、あてはまらないと答えた人が35・7%と、3分の1以上を占めた。世間話や情報交換をしないという理由だけでなく、「楽しく感じない」という点で、あてはまらないと答えたのかも知れない。男性の60代以上の世代では、あてはまらないと答えた人は31・2%と、4・5ポイントほど減っている。続いて、生活しているまちで、知人や友人を(もっと)増やした

「どちらかといえばそう思う」人)をあわせる
と、80%近くになり、肯定的な意見が多い。
しかし、世代間で多少変動がある。20代が
もっとも割合が少なく、30代で増えているも
の、50代になると、年齢を重ねるごとに、誇
りに思っていると答える人の割合が減ってい
る。そして60代以上になると、格段に増える。
特に男性にその差が顕著である。女性は男性
ほど、年代による差が顕著ではないが、肯定
的に答えている人が、50代以降年齢を重ねる
と増えており、子育ての負荷が次第に減少す

増やしたい”友人・知人“

生活しているまちでの、交友状況やニーズ

る時期と重なる。
地域に関心を持つのは30代頃が多いが、40
代を経て、50代になると各種社会活動が中心
の生活の中で、地域への評価や価値観が厳し
くなってくるのかもしれない。60代以上にな
ると、退職したり育児が終わったりで余裕が
でき、地域のよさを再確認するのではないか。

を聞いてみた(図4)。
まず、生活しているまちに、楽しく世間話や
情報交換ができる知人や友人がいるか。
全体として、あてはまる人(「そう思う」「ど
ちらかといえばそう思う」と答えた人)は、
76・9%と8割近くを占めた。年代別では、30
代がもっとも多く、40代、50代と減少、60代で
少し増える傾向にある。ただし、女性は年代間
であまり大きな差はなく、どの世代も男性よ
りあてはまる割合が多かった。女性の方が地域や社会のコミュニティにうまく

表1 知人や友人をもっと増やしたいか %

	総数 (n)	あてはまる (そう思う+どちらかといえばそう思う)	あてはまらない (そう思わない+どちらかといえばそう思わない)
祭り・イベント			
積極的に参加している	103	95.1	4.9
ある程度参加している	761	80.2	19.7
参加したことがない	316	55.7	43.7
無回答	2	100	0
自治会活動やまちづくり活動			
積極的に参加している	112	95.5	4.5
ある程度参加している	632	79.3	20.4
参加したことがない	436	63.3	36.5
無回答	2	100	0

いか、と質問した。全体では、あてはまると答えた人が75%を占め、多くの人が増やしたいと考えている。年代別で比較すると、あてはまると答えた人は30代がもっとも多く、年代が高くなるのと比例して割合が減っている。やはり、年を重ねると、知人や友人がいる場合が多く、もっと欲しいというニーズが若い世代ほどないのかもしれない。男女別では、30代女性が特にニーズが強く、87・9%の人が、知人友人を(もっと)増やしたいと答えている。30代男性では、76・9%であった。視野や行動範囲がぐっと広がる30代において、特に女性には集中して、知人友人を増やしたいと感じている。あるいは、地域における人との交流の大切さや楽しさを、若い頃から直感的に知っているのだろう。

次に、生活しているまちで、自分にあう趣味や活動に(もっと)参加したいと思うか、という質問をした。

全体では、そう思う20・8%、どちらかといえばそう思う49・3%と、合計すると7割近くも占め、活動意欲や余力がうかがえる。年代別では、若い世代がさらに活動を広げたいと考えている。男女別では、あてはまる数が多いのが、女性の50代、続いて女性30代が多い。生活圏にも十分慣れ育児にもひと段落した世代と、これから新たな社会生活や育児を充実させる世代が、地域に根をはって、活動を広げる機会を求めているのではないか。

交流関係や趣味活動への高いニーズ

既に紹介した「祭りやイベント」(以下A)「自治会活動やまちづくり活動」(以下B)への参加状況が、交流関係や趣味活動への意欲に影響しているか、クロス集計を行った(表1)。

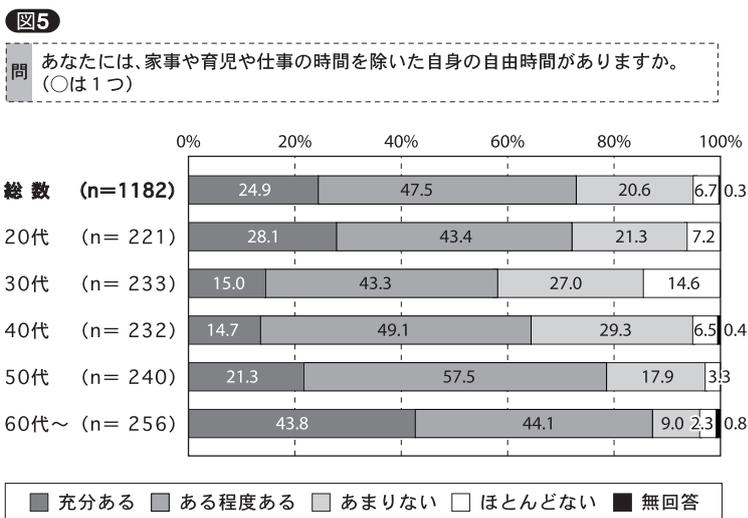
その結果、AやBの活動に参加しているほど、「知人や友人をもっと増やしたい」「自分にあう趣味や活動に(もっと)参加したい」と考えており、一方、AやBの活動に参加していない人でも、ほぼ半数強の人が、今後友人を増やし、活動に参加したいと考えている結果となった。

何らかの理由で、これまで、生活するまちで、祭りやイベント、自治会やまちづくり活

動に参加したことのない人も、半数以上は、興味がないわけではない。機会に恵まなかったのかもしれない。新たな人や活動に出会い、交流や活動を続けられるようなきっかけがもっと欲しいという潜在的ニーズがあるといえる。

自由時間について

生活しているまちについて、興味を深めたり参加体験したり、人と交流するには、少なく



とも時間的な余裕が必要である。そこで、参考として、家事や育児や仕事の時間を除いた「自由時間」がどの程度あると感じているのか、聞いてみた(図5)。

総数では、充分ある24・9%、ある程度ある47・5%であったが、年代でずいぶん差があった。「充分ある」「ある程度ある」と答えた割合がもっとも少なかったのが、30代で58・3%。つまり、30代が、もっとも時間的に余裕がないと感じている世代である。続いて順に40代、20代、50代、60代となった。男女別でも、ほぼ同じ傾向であったが、どの年代も、男性の方が、自由時間があると答えている割合が数ポイントずつ多くなっている。女性は、たとえば、細かい時間割で、家事や育児に携わっている人が少なくないため、まとまった自由時間がとりにくく感じるのかもしれない。

おわりに(まとめ)

生活しているまちへの意識や関わりは、一人ひとりのライフスタイルやライフステージによっても変わるはずだが、今回は年代別の傾向を拾ってみた。その結果、全体としては、世代が高くなるほど、まちへの関心や関与が高くなっている。年代ごとの特徴を簡単にまとめてみる。

もっとも若い世代の20代は、まちの歴史や名所、名産物、行事などへの知見も低く、イベントや活動への参加も少ない。しかしその分、今後、「実際に訪れたり味わったり、自身で体験したい」と知見を深めるために能動的に活動したいというニーズが強い。社会人としても地域人としても、子供と大人の中間の世代であり、まちや人との関わりも、これから広がる、その前段階だといえる。

30代は、「楽しく世間話や情報交換ができる知人や友人がいる」「さらにもっと知人・友人を増やしたい」と考えている人がいずれももっとも多い。地域や社会の中で、人との交流の必要性や意義、楽しさを一番感じている世代だといえる。一方、どの世代よりも、時間に余裕がないと感じている。忙しい中で、できる範囲で、まちや人との関わりを持つ、前向きな傾向がある。

40代は、まちへの関わりが深くなり、概して、コミュニティを支える意欲的な世代だといえる。生活しているまちの名所や名産物についても、もっとよく知り、さらに知見を得たいと考えている。祭りやイベント、自治会やまちづくり活動にも60代以上に次いで参加度が高い。30代に比べると、自由時間が少ないと感じる割合が減り、自分にあう趣味や活動に(もっと)参加したいという人がもっとも多い。

50代は、歴史や伝統行事について、60代以上に次いで、よく知っている。若い世代より自由時間に余裕を感じる面もあり、自分にあう趣味や活動により参加したいというニーズが強い。しかし男性は、楽しく情報交換や世間話をする知人や友人がもっとも少ない。男女で地域への興味や関わり方が異なる傾向が強く、女性が地域や社会により深く関わっている。

60代以上は、地域の歴史について、どの世代よりも興味を持つ傾向にある。各行事や活動にもよく参加しており、生活しているまちに、より「誇り」を持っている。知人・友人はいるが、さらに増やしたいと考え、自分にあう趣味や活動にも参加したいと意欲的だ。自由時間が、どの世代よりもたくさんあり、第2、第3の人生をより充実させたいという思いが影響していると考えられる。

男女別で見ると、生活しているまちに対して、中年以上の女性の意識や関わりがより深いと推察できる。活動やコミュニティを支えていると考えられる。

このような今回の調査結果や考察は、非常に狭い導入的な切り口からにすぎないが、まちにおける各種活動や娯楽プログラムを企画推進するにも、一方で、防災面においても、地域力を高めるヒントとなれば幸いである。